

犯罪に備える

子どもを 犯罪から守る

子どもを狙った卑劣な犯罪が後を絶ちません。子どもたちが健やかに育つことは社会全体の願いです。家庭・地域・学校が協力し合い、子どもを安心して育てられるまちづくりに取り組む必要があります。

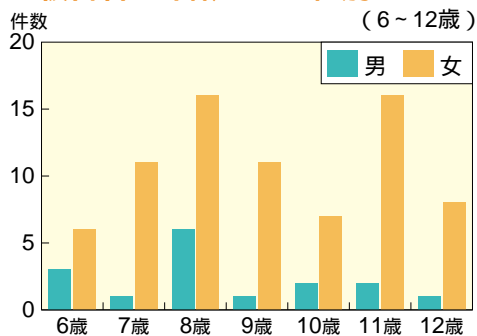


地域で子どもの安全を守る

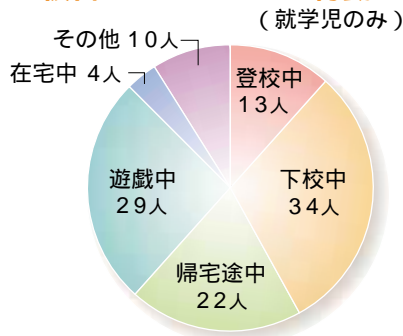
子どもを狙った犯罪を防ぐためには、地域ぐるみの取り組みが必要です。あいさつをして声をかけあったり、ボランティアグループで登下校時の防犯パトロールをしたりと、できることから始めてみましょう。地域住民による日常的な声かけは、子どもの非行防止にも有効です。また、もしものときに子どもがいつでも避難できる「こども110番の家」を地域に増やすことも大切です。

子どもを狙った誘拐事件に関するデータ 警察庁資料より作成(平成15年1月～10月15日に発生した事案)

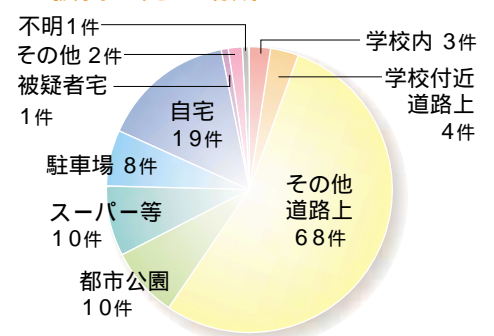
被害者の年齢および性別



被害にあったときの行動



被害の発生場所



手口と失敗の原因

犯行の手口

暴行・脅迫	5件	} 87件
いきなり引きずり込まれる	38件	
だまされるなど自分からついていく	44件	

失敗した原因

通行人等の目撃者がいた	13件	} 29件
抵抗して逃げた	16件	



こんにちは



子どもに防犯意識をもたせる

大人が子どもを守る対策と同時に子ども自身にも防犯意識をもたせる必要があります。犯罪を遠ざける「危険察知能力」を身につけさせましょう。

子どもと4つの約束をする

- ①一人で遊ばない。
- ②出かけるときは「だれと、どこで、何をして、何時に帰るか」を伝えてから出かける。
- ③知らない人にはついて行かない。
- ④連れて行かれそうになったら、大声で叫ぶ。



児童虐待を防ぐ

児童虐待は、密室である家庭内で行われることが多く、身体的、心理的虐待だけでなく、満足な食事を与えないといった養育放棄のケースもあります。虐待を受けている子どもの多くは、家を追い出されてしまうことなどを恐れて、誰にも相談できないでいます。

近所で次のような<サイン>が感じられる様子のおかしい子どもを見かけたら、声をかけてあげましょう。話を聞き、場合によっては、児童相談所や警察などに相談することも必要です。

虐待児童のサイン

- 不自然なあざや、傷がある
- 極端にやせている
- 衣服や体が不衛生な状態にある
- 子どもの悲鳴や泣き声などが、頻繁に聞こえる
- 子どもが夜間に出歩いて、家に帰りたがらない
- 小さな子どもを置いて、保護者がよく家を留守にする



子どもに携帯電話を利用させるときは

携帯電話は便利な防犯ツールとして利用できます。GPS機能があれば、子どもの所在位置を把握でき、危険に遭遇した場合にはすぐに連絡が取れます。半面、一部の携帯電話からは簡単に「出会い系サイト」など

にアクセスすることができます。こうしたサイトへのアクセスをきっかけとして、子どもが非行や犯罪に巻き込まれるケースもあります。子どもに携帯電話を持たせる場合は、「出会い系サイト」へのアクセスを制限できる携帯電話を選ぶ、携帯電話の使用ルールを話し合うなどの対策をとりましょう。